



カトリーヌ10世
Catherine X

PROFILE

グローバル化が進む
社交界事情にも通じる。
密かな趣味は人間観察とコスプレ。
好きな飲み物はモンラッシェ。
日本ではほとんど知られていない。
ある小国の女王とのウワサも?

来 月号の本誌発売と同時期に日本公開される「関心領域」は、不条理な現代を生きる人たちに「観たい」といいたい映画です。映し出される映像は、小市民的で幸福な生活を送る家族の淡々とした日々の記録です。家長は任務に忠実な国家公務員、庭には美しい花々が咲き乱れ、プールもあり、家政婦までいて、何ひとつ不自由ありません。

ただ、合間、合間に壁の向こうから「音」が聞こえ「煙」が見えます。家族には環境音でしかないその音から、私たちが何が起きているのかを想像せざるをえなくなります。壁を共有するお隣は、人類史上最悪の虐殺が行われた場所、アウシュビッツ収容所なのです。そこから出てくる「灰」がこの家の庭の豪華な花々の裏分になっているのです。

日々の生活が平穏であるかぎり、隣で起きていることには不介入で無関心。万一、何が起きているのか知っているとしてもとどろつすることも、

無関心を貫く。この話は1945年の異国の家庭の日常ではなく、2024年の私たちの日常であることに気づかされる監督の手法に唸ります。アカデミー賞国際長編映画賞と音響賞受賞も納得です。「音」だけでホロコーストのうひとつの恐怖、人々の「無関心」がもたらす恐怖を描ききったのですから。

いまも地球上のあちこちで不条理な戦争や虐殺が起き、日本でも貧富の格差拡大を背景とする悲惨な事件や行政の機能不全に端を発する社会問題が後を絶ちません。それでも自分をとりまく日常の平和が保たれている時、私たちは与えられた日々を幸せに生きることをだけ考えます。しかし、そんな振る舞いは、大虐殺実行者のカルチャーと変わらないうと監督は示唆しているのです。

映画を見て、人間の無関心の恐ろしさ、「目覚めなさい」。たとえとどろつすることもできなくても、偶然性のなかに生きねばならない痛みを自覚するだけで、あなたの人間的な深みに違いが生まれるでしょう。

04 Lifestyle

男たちよ
目覚めなさい

イラスト/ユリコフ・カワヒロ

無関心の
おそろしさに
目覚めなさい